

第1 大気汚染状況調査（光化学スモッグ情報など）

1 測定局の概要

大田区では、区内の大気汚染の状況を把握するために、住宅地などの一般環境地域に5か所、主要な道路沿道に4か所の測定局を置き、常時測定を行っている。

(1) 測定地点

住宅地域等に設置している一般環境大気測定局（以下「一般局」とする）5局と、沿道に設置している自動車排出ガス測定局（以下「自排局」とする）4局について、図1に測定局の配置図を、表1に測定局名と所在地を示す。



図1 測定局の配置図

表1 測定局名と所在地

測定局名		所在地	
一般環境	① 中央	大森西一丁目12番1号	大森地域庁舎
	② 雪谷	東雪谷三丁目6番2号	雪谷特別出張所
	③ 矢口	千鳥三丁目7番5号	こども発達センターわかばの家
	④ 六郷	東六郷二丁目3番1号	東六郷小学校
	⑤ 京浜島	京浜島二丁目10番2号	京浜島会館
道路沿道	⑥ 大森西	大森西二丁目2番1号	プラムハイツ大森西
	⑦ 東六郷	東六郷一丁目12番6号	特別養護老人ホーム大田翔裕園
	⑧ 東矢口	矢口一丁目2番6号	池上警察署矢口地域安全センター脇
	⑨ 羽田	羽田五丁目5番19号	羽田測定局

(2) 測定項目

表2に測定局ごとの測定項目を示す。

表2 測定局ごとの測定項目

測定局名		測定項目										
		二酸化硫黄	窒素酸化物	光化学オキシダント	炭化水素	浮遊粒子状物質	風向	風速	温度	湿度	紫外線	日射量
一般局 (一般環境)	① 中央	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
	② 雪谷	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○
	③ 矢口	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-
	④ 六郷	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-
	⑤ 京浜島	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-
自排局 (道路沿道)	⑥ 大森西	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-
	⑦ 東六郷	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-
	⑧ 東矢口	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-
	⑨ 羽田	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-

注) 羽田測定局は、平成30年11月1日から測定開始。

(3) 測定期間

平成30年4月1日(日)から平成31年3月31日(日)まで

(羽田測定局は平成30年11月1日(木)から平成31年3月31日(日)まで)

2 環境基準について

環境基準とは、生活環境を良い状態に保ち、健康を守っていくうえで維持されることが望ましい基準である。二酸化硫黄、二酸化窒素、光化学オキシダント、浮遊粒子状物質については、環境基準が定められている。

なお、工業専用地域、車道、その他住民の生活実態のない地域では、この基準は適用されない。

表3に環境基準値を、表4に環境基準の評価方法を示す。

表3 環境基準値

物質名	環境上の条件
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。

表4 環境基準の評価方法

項目	評価方法	
二酸化硫黄	短期的評価	測定を行った日の1時間値の1日平均値または各1時間値を環境基準と比較して評価。
	長期的評価	年間の1時間値の1日平均値のうち高いほうから2%の範囲にあるものを除外した最高値を環境基準と比較して評価(ただし、1日平均値が環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、環境基準未達成となる。)
二酸化窒素	短期的評価	
	長期的評価	年間の1時間値の1日平均値のうち低いほうから98%に相当する値を環境基準と比較して評価。
光化学オキシダント	短期的評価	測定を行った日の昼間(5時~20時)の各1時間値を環境基準と比較して評価。
	長期的評価	
浮遊粒子状物質	短期的評価	測定を行った日の1時間値の1日平均値または各1時間値を環境基準と比較して評価。
	長期的評価	年間の1時間値の1日平均値のうち高いほうから2%の範囲にあるものを除外した最高値を環境基準と比較して評価(ただし、1日平均値が環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、環境基準未達成となる。)

3 測定結果

(1) 環境基準達成状況

表 5 に平成 30 年度の環境基準の達成状況を示す。

表 5 平成 30 年度の環境基準の達成状況

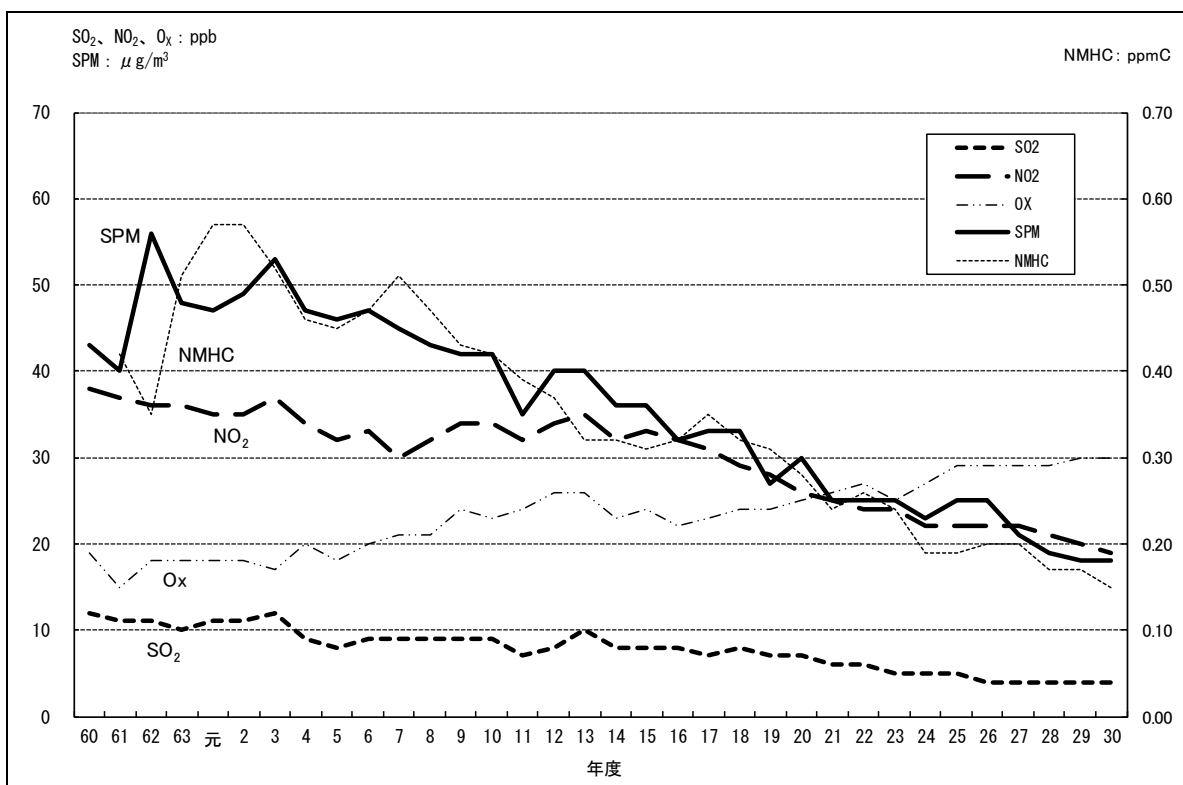
測定局		二酸化硫黄		二酸化窒素	光化学 オキシダント	浮遊粒子状物質	
		長期的評価	短期的評価	長期的評価	短期的評価	長期的評価	短期的評価
一般局 (一般環境)	中央	○	○	○	×	○	○
	雪谷	/	/	○	×	○	○
	矢口	○	○	○	×	○	○
	六郷	○	○	○	×	○	○
	京浜島	○	○	○	×	○	○
自排局 (道路沿道)	大森西	/	/	○	/	○	○
	東六郷	/	/	○	/	○	○
	東矢口	/	/	○	/	○	○
	羽田	/	/	/	/	/	/

注) ○：環境基準達成 ×：環境基準未達成

注) 羽田測定局は測定時間が基準(有効時間数 6000 時間以上)に達しなかったため、評価から除外した。

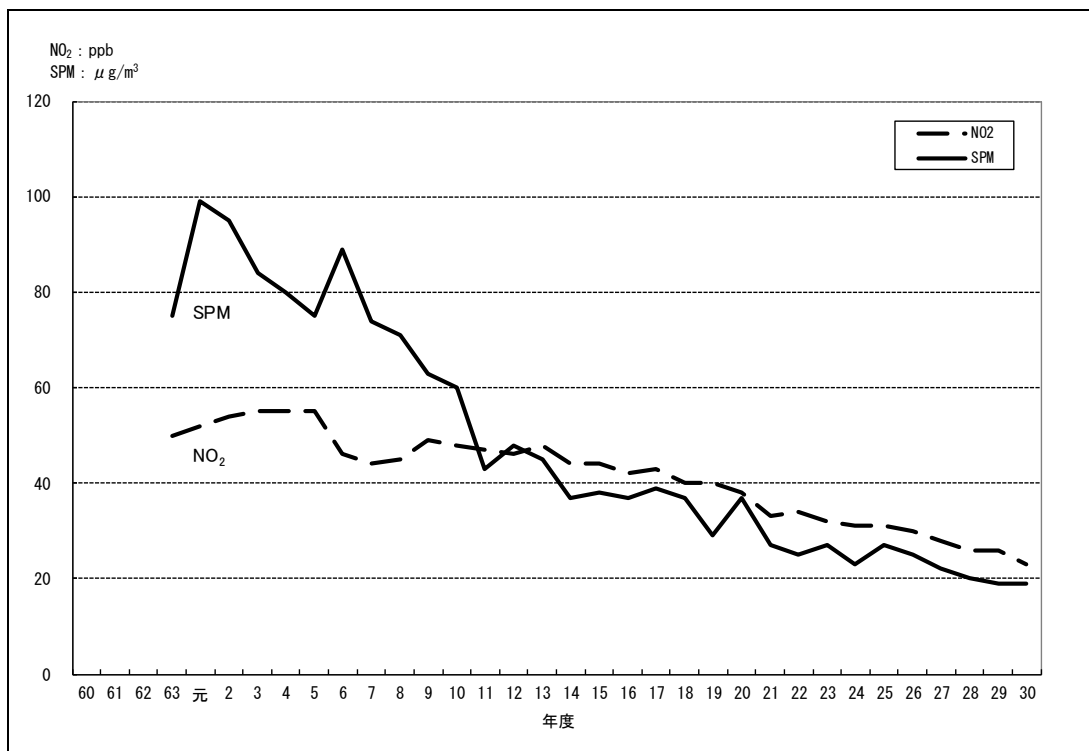
(2) 年平均値の経年変化 (昭和 60 年度～平成 30 年度)

図 2 に一般局の経年変化を、図 3 に自排局の経年変化を示す。



SO₂: 二酸化硫黄、NO₂: 二酸化窒素、O_x: 光化学オキシダント、SPM: 浮遊粒子状物質、NMHC: 非メタン炭化水素

図 2 一般局の経年変化 (昭和 60 年度～平成 30 年度)



NO₂ : 二酸化窒素、SPM : 浮遊粒子状物質
 注) 羽田測定局は測定時間が基準(有効時間数 6000 時間以上)に達しなかったため、集計から除外した。

図3 自排局の経年変化(昭和60年度～平成30年度)

(3) 光化学スモッグ

光化学スモッグの原因である光化学オキシダントの濃度が高くなると、目やのどの痛みといった症状が出るほか、植物への被害などの影響がみられる。

区では、平日、光化学オキシダントの濃度が高くなった場合の緊急時の対策として、光化学スモッグ注意報の発令や、光化学スモッグ学校情報の提供を行っている。

平成30年度に学校情報を提供した日数は1日、注意報を発令した日数は2日だった。警報及び重大緊急報を発令した日はなかった。

表6に年度別発令日数を示す。

表6 年度別発令日数

年度	学校情報 0.100ppm以上	注意報 0.120ppm以上	警報及び重大緊急報 0.240ppm以上
平成26年度	2	2	0
平成27年度	7	0	0
平成28年度	4	1	0
平成29年度	3	1	0
平成30年度	1	2	0

4 大気汚染常時監視測定結果

大気汚染常時監視測定結果について、各項目の測定結果および、環境基準が設けられている項目における適合状況を以下に示す。

(1) 二酸化硫黄

項目	結果
環境基準	短期的評価、長期的評価ともに全局で基準を達成している。
経年での状況	平成30年度平均値は0.003～0.005ppmであった。前年度と比べて大きな変化はみられない。ここ10年間では減少傾向にある。
その他	季節変動は、春から夏にかけてやや高くなる傾向がみられるが、大きな変動ではない。 経時変化は、日中にやや高くなる傾向がみられるが、大きな変動ではない。

表7 二酸化硫黄の環境基準適合状況

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	環境基準適合状況					
				短期的評価			長期的評価		
				1時間値が0.1ppmを超えた時間数	日平均値が0.04ppmを超えた日数	達成状況	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数	達成状況
日	時間	ppm	時間	日		有× 無○	日		
中央	362	8572	0.003	0	0	達成	○	0	達成
矢口	364	8679	0.004	0	0	達成	○	0	達成
六郷	364	8689	0.005	0	0	達成	○	0	達成
京浜島	363	8574	0.004	0	0	達成	○	0	達成

(2) 窒素酸化物

ア 二酸化窒素

項目	結果
環境基準	長期的評価において、全局で基準を達成している。
経年での状況	平成30年度平均値は0.016～0.025ppm（一般局）、0.021～0.027ppm（自排局）であった。全局でほぼ前年どおりか、もしくは減少している。 ここ10年間では減少傾向がみられる。
その他	顕著な季節変動はみられないが、7月に低くなる傾向がみられる。 経時変化は、1日をとおして大きな変動はみられない。

表8 二酸化窒素の環境基準適合状況

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	環境基準適合状況		
					長期的評価		
					日平均値の年間98%値	環境基準の98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数	達成状況
日	時間	ppm	ppm	ppm	日		
中央	357	8503	0.019	0.085	0.045	0	達成
雪谷	362	8582	0.016	0.079	0.045	0	達成
矢口	351	8320	0.016	0.073	0.041	0	達成
六郷	312	7422	0.018	0.088	0.046	0	達成
京浜島	362	8574	0.025	0.097	0.051	0	達成
大森西	363	8583	0.027	0.102	0.053	0	達成
東六郷	362	8575	0.021	0.087	0.047	0	達成
東矢口	363	8606	0.022	0.086	0.048	0	達成

注) 羽田測定局は測定時間が基準(有効時間数 6000 時間以上)に達しなかったため、評価から除外した。

イ 一酸化窒素

項目	結果
環境基準	基準値は設定されていない。
経年での状況	平成 30 年度平均値は 0.004~0.011ppm (一般局)、0.009~0.014ppm (自排局)であった。年平均値は、全局でほぼ前年どおりか、もしくは減少している。ここ 10 年間では、一般局は若干の減少傾向がみられ、自排局は顕著な減少傾向がみられる。
その他	季節変動は、全局 11~2 月にかけて高くなり、12 月がピークである。一般局では、ピーク月には年平均値のほぼ 2 倍かそれ以上の値に上昇している。 経時変化は、午前中の濃度が高く、7~9 時にピークがみられる。

ウ 窒素酸化物

項目	結果
環境基準	基準値は設定されていない。
経年での状況	平成 30 年度平均値は 0.019~0.036ppm (一般局)、0.031~0.041ppm (自排局)であった。全局でほぼ前年どおりか、もしくは減少している。 ここ 10 年間では、一般局は若干の減少傾向がみられ、自排局は顕著な減少傾向がみられる。

その他	通常の測定局では、窒素酸化物のうち二酸化窒素の占める割合は6～9割ほどである。しかし、冬季の自排局では、二酸化窒素の割合は5～6割ほどとなる。冬季は地上の気温が低く対流が起こりにくいため、自動車の排気ガスに含まれる一酸化窒素が滞留しやすいからである。
-----	---

(3) 光化学オキシダント

項目	結果
環境基準	短期的評価において、全局で基準を達成できなかった。 (昼間(5～20時)の1時間値が0.06ppmを超えた日数:50～80日 (時間数:202～469時間))
経年での状況	平成30年度平均値は0.026～0.034ppmであった。全局ではほぼ前年どおりである。ここ10年間では、若干の増加傾向である。
その他	平成26年度～平成29年度の光化学スモッグ学校情報(基準濃度0.1ppm)の年間提供回数は、2～7回であり、平成30年度は1回であった。 同様に注意報(基準濃度0.12ppm)の発令回数は0～2回のところ、平成30年度は2回であった。 また、光化学スモッグ注意報の基準濃度0.12ppm以上を観測した時間数は、平成29年度は2～6時間であったのに対し、平成30年度は4～8時間で、前年より若干増加した。

表9 光化学オキシダントの環境基準適合状況

測定局	昼間 測定時間	昼間の 1時間値の 年平均値	環境基準適合状況		
			短期的評価		
			昼間の 1時間値の 最高値	昼間の1時間値が 0.06ppmを超えた時間数	達成 状況
時間	ppm	ppm	時間		
中央	5367	0.031	0.162	372	非達成
雪谷	5363	0.034	0.176	469	非達成
矢口	5382	0.032	0.162	389	非達成
六郷	5370	0.029	0.147	274	非達成
京浜島	5372	0.026	0.129	202	非達成

(4) 炭化水素(非メタン炭化水素及びメタン)

項目	結果
環境基準	基準値は設定されていない。
経年での状況	非メタン炭化水素の平成30年度平均値は0.14～0.17ppmCであり、ここ10年間では、若干の減少傾向である。 メタンの平成30年度平均値は1.95～2.01ppmCであり、ほぼ前年ど

	おりである。ここ 10 年間では、横ばい傾向である。
その他	光化学オキシダントの環境基準 (0.06ppm) に対応する非メタン炭化水素の濃度 (午前 6~9 時の 3 時間平均値) が指針値で決められており、その上限値となる 0.31ppmC を超えた日は 3 局平均で 19 日となった。 季節変動は、12 月にピークがみられるが、大きな変動ではない。 経時変化は、1 日をとおして大きな変動はみられない。

(5) 浮遊粒子状物質

項目	結果
環境基準	短期的評価、長期的評価ともに、全局で基準を達成している。
経年での状況	平成 30 年度平均値は 0.017~0.020mg/m ³ (一般局)、0.018~0.019mg/m ³ (自排局) であった。全局ではほぼ前年どおりか減少している。ここ 10 年間では若干の減少傾向がみられる。
その他	季節変動については、例年暖候期に高く、寒候期に低くなる傾向にある。平成 30 年度においてもほとんどの測定局で 7~8 月に最大値、1 月に最小値を示している。

表 10 浮遊粒子状物質の環境基準適合状況

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	環境基準適合状況							
				短期的評価			達成状況	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日数が 2 日以上連続したことの有無	日平均値の年間 2% 除外値	環境基準の長期的評価による日平均値 0.10mg/m ³ を超えた日数	達成状況
				1 時間値が 0.20mg/m ³ を超えた時間数	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日数	達成状況					
				時間	日	有× 無○					
中央	356	8605	0.017	0	0	達成	○	0.042	0	達成	
雪谷	357	8612	0.017	0	0	達成	○	0.045	0	達成	
矢口	362	8700	0.018	0	0	達成	○	0.044	0	達成	
六郷	361	8682	0.020	0	0	達成	○	0.049	0	達成	
京浜島	360	8673	0.018	0	0	達成	○	0.041	0	達成	
大森西	362	8702	0.019	0	0	達成	○	0.047	0	達成	
東六郷	361	8683	0.019	0	0	達成	○	0.047	0	達成	
東矢口	361	8677	0.018	0	0	達成	○	0.045	0	達成	

注) 羽田測定局は測定時間が基準(有効時間数 6000 時間以上)に達しなかったため、評価から除外した。

5 まとめ

環境基準の設定されている測定項目のうち、光化学オキシダントを除く全ての項目において、全局で環境基準を達成した。光化学オキシダントは全局で環境基準を達成できず、測定値の年平均値は平成 29 年度とほぼ同じである。また、浮遊粒子状物質および二酸化窒素については、若干の減少傾向ではあるが気象傾向等により未達成の年があるため、引き続き常時監視の結果を注視していく。

大田区及び東京都は、光化学オキシダントの原因となる炭化水素の削減や、PM2.5 の主要な原因の一つである揮発性有機化合物 (VOC) 削減対策に力を入れている。光化学オキシダントは気候の影響も大きい。このため、温暖化により気温が 35℃以上となる日が多くなることが予想される今後は、更なる揮発性有機化合物 (VOC) をはじめとする化学物質対策を行い、大気汚染の減少につなげる必要がある。

6 用語の解説

(1) 大気を汚す主な物質

ア 硫黄酸化物

石油などの硫黄を含む燃料を燃やした時に発生する刺激性の強いガスである。硫黄酸化物は、二酸化硫黄と三酸化硫黄および、三酸化硫黄が大気中の水分と反応して生じる硫酸ミストを含めたものである。

イ 窒素酸化物

大気中での燃焼にともない、空気中の窒素と酸素が結びついて発生する。一酸化窒素と二酸化窒素をあわせたものを窒素酸化物という。

ウ 光化学オキシダント

窒素酸化物と炭化水素が大気中で紫外線にあると、化学反応を起こしてできる酸化力の強い物質の総称。光化学スモッグの原因物質でもある。

エ 浮遊粒子状物質

空気中に浮かんでいる粉じんのうち、直径 10 マイクロメートル以下の粒子状の物質のことである。

オ 微小粒子状物質 (PM2.5)

空気中に浮かんでいる粉じんのうち、直径 2.5 マイクロメートル以下の粒子状の物質のことである。

カ 炭化水素

炭素と水素からできている化合物の総称である。非メタン炭化水素は、窒素酸化物と光化学反応を起こして光化学スモッグの原因である酸化性物質を作る。

キ 揮発性有機化合物 (VOC)

大気中に排出され、または飛散した時に気体である有機化合物と定義される。英語の頭文字を取って VOC (Volatile Organic Compounds) と記載される場合が多い。

(2) その他

ア ppm

容量比を表す単位で、「part per million」の略称であり、100 万分の 1 を示す。1ppm とは、空気 1 立方メートル中に汚染物質が 1 立方センチメートル含まれることをいう。

イ ppmC

大気中の炭化水素の容量比を表す単位で、1ppmC とは、空気 1 立方メートル中に炭化水素をメタンに換算して 1 立方センチメートル含まれることをいう。

ウ mg/m³

濃度を表す単位で、1 mg/m³ とは、1 立方メートルの空気に 1 ミリグラムの汚染物質が含まれることをいう。

ミリ (m) は 1000 分の 1 の単位で、1mg/m³ は 0.001g/m³。

エ μg/m³

濃度を表す単位で、1 μg/m³ とは、1 立方メートルの空気に 1 マイクログラムの汚染物質が含まれることをいう。

マイクロ (μ) は 100 万分の 1 の単位で、1 μg/m³ は 0.001mg/m³。

オ 1 時間値

大気汚染物質濃度の 1 時間の平均値。

カ 日平均値

大気汚染物質濃度の 1 時間値の 1 日分の平均値。

キ 光化学スモッグ学校情報

光化学オキシダント濃度の 1 時間値が 0.100ppm 以上となり、気象条件からみてその状況が継続すると認められるときに、児童・生徒の光化学スモッグによる被害を未然に防止するため、学校等に対して周知する情報。

ク 光化学スモッグ注意報

光化学オキシダント濃度の 1 時間値が 0.120ppm 以上となり、気象条件からみてその状況が継続すると認められるときに発令し、注意喚起を行う情報。